

## ブックスタートにおけるボランティアの現状と課題

安東 謙実

イギリスで始まったブックスタートは 2001 年に日本でも事業が開始され、現在では約 6 割を超える自治体が活動に取り組んでいる。1 組 1 組の親子に丁寧に対応することが重要なブックスタートでは、ボランティアの存在が大きな役割を果たしている。しかし、ブックスタートにおけるボランティアの活動の現状については十分に明らかになっていない。

そこで、本研究では、ブックスタートにおけるボランティアの活動状況の現状（目的 1）、およびブックスタートにボランティアが関わる中で起きている課題とその解決策（目的 2）を明らかにすることを目的とした。

本研究では、目的 1 を検討するために、調査 1 として関東のブックスタートを実施している自治体 212 件を対象とした。質問紙では、全自治体共通の項目としてブックスタートの実施目的や活動内容等のブックスタートの基本事項について、ボランティアのいる自治体にはボランティアの活動内容や年齢層、ボランティアと活動する中で起きた課題等について、ボランティアのいない自治体にはボランティアが活動していない理由等について尋ねた。

次に、目的 2 を検討するために、調査 1 でボランティアと活動する中で課題が起きたと答えた自治体から、課題が解決した自治体を A 群、解決していない自治体を B 群として、A 群から 5 件、B 群から 3 件を対象に、調査 2 としてインタビュー調査を実施した。インタビューでは、全体で課題の具体的な内容と原因について、また A 群には課題が解決された経緯、B 群には課題解決のために何が必要かについて尋ねた。

調査 1 の結果、ブックスタートにおいてボランティアが活動している自治体の割合は約 83%で、ボランティアの主な年齢層は約 84%の自治体で活動している 60 歳代であった。また、ボランティアがいる自治体のほうが実施会場で親子に絵本を手渡す、読み聞かせをするなどといったブックスタートの個々の活動の実施率が上回っていることが示された。さらにボランティアが活動の企画に加わる場合、ボランティアの個々の活動の実施率が上回っていることが示された。ブックスタートにボランティアが関わる中で起きる課題については、解決すべき優先度の高い順に、人員、連携、活動、環境と分類されることが示唆された。

調査 2 の結果、人員、連携、活動の課題の原因と解決策が示唆された。人員の解決策については、活動の認知度を住民に広めること、ホームページや広報など複数の媒体でボランティアの募集を呼びかけること、ボランティアを継続できるように活動を辞める要因となるものは研修会等を通して解消することが示唆された。連携については、図書館や保健センター等の実施機関とボランティアが一堂に会して情報共有、意見交換ができる場となる意見交換会や研修会を設けること、活動については実施機関を越えて赤ちゃんや子育てに関係のある健康課などの別の機関に協力を要請するのが有効であることが示唆された。

（指導教員 鈴木佳苗）